

自己決定権と人権を魂（まぶい）とする豊かな沖縄を
—立憲民主党沖縄県連合結成宣言—

2018年8月29日

私たちは沖縄県民と深く連帯することを基本理念とし、琉球処分や日本で唯一の地上戦を経験し、戦後占領下から日本本土復帰後も長く続くウチナーンチュの苦難の歴史の解決を求め、立憲民主党沖縄県連合をここに結成する。

「命（ぬち）どう宝」は、沖縄の歴史から生まれた言葉であり、同時に恒久平和の実現を求める日本国憲法の精神そのものである。日米安保体制のもとで全土基地方式でありながらも、実際には沖縄に過重な負担が強いられていることは、いかなる理屈を唱えようと、明らかな差別であることはまぎれもない事実である。

翁長雄志知事が繰り返し強調したように、いま沖縄にとって重要な視点は「イデオロギーよりアイデンティティ」である。「アイデンティティ」とは、まさに沖縄県民一人ひとりが先天的に身にまとう長い歴史と伝統である。わたしたちは美しい自然、そこにある生きとし生けるものすべてが育つ条件をこれからも継承して行かなければならない。

ジュゴンやサンゴ、そして県民の生命と暮らしを党派を超えて守ることは、普遍的な課題である。東アジア情勢が根源的に平和に進む可能性が高まっているいま、朝鮮有事を前提とした沖縄の海兵隊の役割にも根本的な変化が生まれる条件が整いつつある。わたしたちはその動きを積極的に推進しつつ、沖縄「建白書」（2013年）を原点として、日米地位協定の抜本的改定、普天間基地の閉鎖、辺野古新基地建設の見直し＝断念をアメリカ政府および日本政府に粘り強く求めていく。

立憲民主党は2017年10月に結成された若い政党である。わたしたちはこの沖縄で、狭い既成の政治ではなく、沖縄の伝統ある文化に根ざした幅広く新鮮な独自の政治運動を県民のみなさんとともに進めていく。全世代に影響を及ぼす基地問題、格差是正、子供の貧困対策などなど、あらゆる生活の問題をともに解決していこう。わたしたち立憲民主党はここ「美（ちゅら）島」沖縄で新たな船出をすることを宣言する。